



飛田雄一『現場を歩く現場を綴る—日本・コリア・キリスト教』（かんよう出版、2016.6、四六版、250頁、1620円）

< 目次 >

第一章 現場を振り返る

- 一、日本の中のアジアー在日朝鮮人との出会いから
- 二、むくげの会のこと
- 三、東アジアの和解と共生を問う
- 四、神戸学生青年センターのこと

第二章 “昭和天皇の死”と朝鮮

- 一、昭和天皇の死と朝鮮
- 二、昭和天皇の「お言葉」問題、その後
- 三、昭和の皇民化政策

第三章 歴史を知る

- 一、朝鮮人強制連行と「宗教教師勤労動員令」
- 二、L・L・ヤングと在日朝鮮人キリスト者
- 三、YH貿易事件

第四章 韓国を歩く

- 一、はじめての韓国
- 二、仮面劇・光州
- 三、日韓NCC-URM協議会

第五章 現場を綴る

神戸の現場から他

第六章 本を読む

李仁夏著『自分を愛するように「生活の座」から、み言に聞く』ほか



飛田雄一『旅行作家な気分』

（合同出版 2017.1 四六版 272頁 1620円）

<目次>

- 01 アジアの中の日本--韓国・北朝鮮・中国への旅から
- 02 隨想 濟州島行
- 03 延辺朝鮮族自治州への旅
- 04 韓国への旅 友を訪ねて三千里
- 05 韓国への旅 神戸電鉄敷設工事で犠牲となった朝鮮人労働者の遺族を訪ねて
- 06 韓国原州に張壹淳先生の墓地を訪ねて
- 07 韓国お祭りツアー第1弾 江陵端午祭--「見るもの聞くもの、これぞ、お祭り」
- 08 南京大虐殺の現場を訪ねる旅
- 09 阪神教育闘争犠牲者の遺族を韓国に訪ねる
- 10 韓国お祭りツアー第3弾 珍島靈登祭

- 11 韓国「民草」ツアーディ1弾 東学の道
- 12 韓国「民草」ツアーディ2弾 濟州島「4・3+ハルラ山」
- 13 南京再訪 そして731 & 安重根のハルビンへ
- 14 朝鮮民主主義人民共和国ツアーディ
- 15 「南京大虐殺への道」を訪ねて
- 16 韓国お祭りツアーディ4弾 安東国際仮面劇フェスティバル-訪問の記
- 17 張壹淳先生10周忌の集いに原州を訪問して
- 18 上海・南京・大連・旅順フィールドワーク--神戸・南京をむすぶ会
- 19 第2回日韓歴史研究者共同学会in釜山
- 20 濟州島フィールドワーク--2006夏・日本軍の作った軍事施設跡を訪ねる
- 21 濟州島一周サイクリング（2007年）
- 22 濟州島一周サイクリング（2008年）
- 23 中央アジアのコリアンを訪ねる旅--カザフスタン、ウズベキスタン
- 24 延吉に尹東柱の生家などを訪ねて
- 25 南京・海南島・上海への旅--神戸・南京をむすぶ会フィールドワーク2011夏
- 26 ソウル漢江・サイクリング
- 27 むくげの会 釜山・慶州合宿レポート
- 28 またまた行つきました 濟州島一周サイクリング
- 29 クルーズで釜山に行ってきました
- 30 黃浦軍官学校と朝鮮人--神戸・南京をむすぶ会第19次訪中レポート
- 31 濟州島・李仲燮美術館
- 32 麗水・順天を訪ねて



飛田雄一『心に刻み 石に刻む——在日コリアンと私』
(三一書房 2016.11 四六判 255頁 1944円)

<目次>

巻頭インタビュー（聞き手：川瀬俊治）

第一章 総論

- ・私の市民運動“ことはじめ”、そしてそれから

第2章 歴史編

- ・一九六一年・武庫川河川敷の強制代執行
- ・アジア・太平洋戦争下、神戸港における朝鮮人・中国人・連合国軍捕虜の強制連行・強制労働ほか

第3章 法的地位

- ・サンフランシスコ平和条約と在日朝鮮人
- ・GHQ占領下の在日朝鮮人の強制送還
- ・難民条約発効より二〇年——改めて日本の難民政策を考える——ほか

アマゾンでも購入できますが、飛田直営店での購入をよろしく。送料とも『現場を歩く、現場を綴る』1500円、『心に刻み、石に刻む』1800円、『旅行作家な気分』1500円。申し込みは、飛田hida@ksyc.jpまたはFAX 078-821-5878（神戸学生青年センター）まで。郵便振替用紙を同封してお送りします。

ひょうご 選書

心に刻み 石に刻む

飛田雄一著



多文化共生の一断面

の事務局に。神戸在住のスリ

ランカ人留学生の治療費を生

活保護から支給することを拒

否した厚生省(当時)を相手

取る裁判では、著者自身が原

告となり最高裁まで闘つた。

阪神教育闘争、武庫川河川

敷の強制執行…。寂かされ

そうな歴史を振り起こし、現

在に位置づける。今、目の前

にある課題に向き合い、解決

の糸口を探る。その作業の積

み重ねが「多文化共生」の実

践なのだ。

その価値が問われたのが阪

石に刻んできた四十数年間

や、「朝鮮人・中国人強制連行

・強制労働資料集」など、過

去の共・著書のタイトルにそ

れは表れているが、本人のキ

ヤラクターはいたて柔軟、

朗らかだ(本人いわく優柔不

斷)。

「日帝下の朝鮮農民運動」

や、「朝鮮人・中国人強制連行

・強制労働資料集」など、過

去の共・著書のタイトルにそ

れは表れているが、本人のキ

ヤラクターはいたて柔軟、

朗らかだ(本人いわく優柔不

断)。

このギャップは何?

と疑問だったのだが、実は數

々の運動に取り組む中で「理

屈よりも結果」を求めるため

に、後方に「体得したもので

あることを本書で知った。

神戸電鉄や神戸港の朝鮮
中国人徴用問題では資料を採
集して読みながら、神戸の多文化共
生の一つの断面をさらに深く
多くの成果を得た。1980
年代、全国に広がった在日コ
リアンの指紋押捺拒否闘争で
は、同センターが兵庫連絡会

評者=木村信行・姫路支社
(三一書房・1944年)

心に刻み 石に刻む

在日コリアンと私

飛田雄一著

〈在日朝鮮人問題は、この間、糺余曲

折がありながらも「進展」してきま

した。この現代史的な流れに参画で

きたことを嬉しく思います〉著者は

神戸大学時代、運動を通じて在日朝

鮮人問題に出会い、朝鮮の歴史や朝

鮮語を学ぶ「むくげの会」を結成、以

降朝鮮人強制連行や戦後の在日運動

史を掘り起こし、在日の権利獲得を

めぐるさまざまな課題に関わってき

た。本書は、自身の足跡を振り返り、

その折々の活動や学習の経緯や成果

を綴った論稿をまとめたものだ。在

日朝鮮人の現代史を学ぶ上でも好適

な記録であるが、このテーマに精力

的に取り組んできた著者の人柄がに

じみでた自叙伝としても読ませる。



B6判 / 247頁 / 1800円
三一書房

心に刻み 石に刻む

著者=木村信行
飛田雄一

出版ニュース201702上旬号『心に刻み』

1970年代から盛んになる在日コリアンの人権運動に当初から中
心的にかかわり、いまも活躍している飛田さんが、これまで書かれ
た文章を特にキリスト教に関係しているものを集めて編まれたのがこ
の一冊である。現在、神戸学生青年センター館長を務められている。

本書には1978年の文章から最近のものまで実に多彩で、当時の
時代状況が手に取るように伝わってくる。特に1978年に書かれた
「むくげの会」設立のきっかけとなつた平連運動に携わっておられた
頃をふりかえた文章は興味深い。当時、母親に「農学部でなくべ
平連学部に入学した」となじられるほど熱心に活動を行っていたが、
その運動の中で入管法反対闘争も行うのだが、その場限りで終わる運
動の限界に疑問を感じ、仲間と差別抑圧研究会をつくる。そこで朝鮮
問題を深く追求していくところとなり、朝鮮の抵抗の象徴である「むくげ」
の名前を取つて「むくげの会」と名付けたと。日本人が朝鮮問題
にかかるきっかけや葛藤は、現在の運動のあり方にも大いに参考にな
る。飛田さんには、本書を通じてだけでなく、まだまだご教示いた
だかなければならぬことが多い。

BOOK Review ほんをよむ



現場を歩く 現場を綴る 日本・コリア・キリスト教

飛田 雄一 著
2016.6.1 1500円+税 ○かんよう出版

在日コリアン・マイノリティ人権教育センター『Sai』2016冬/2017春